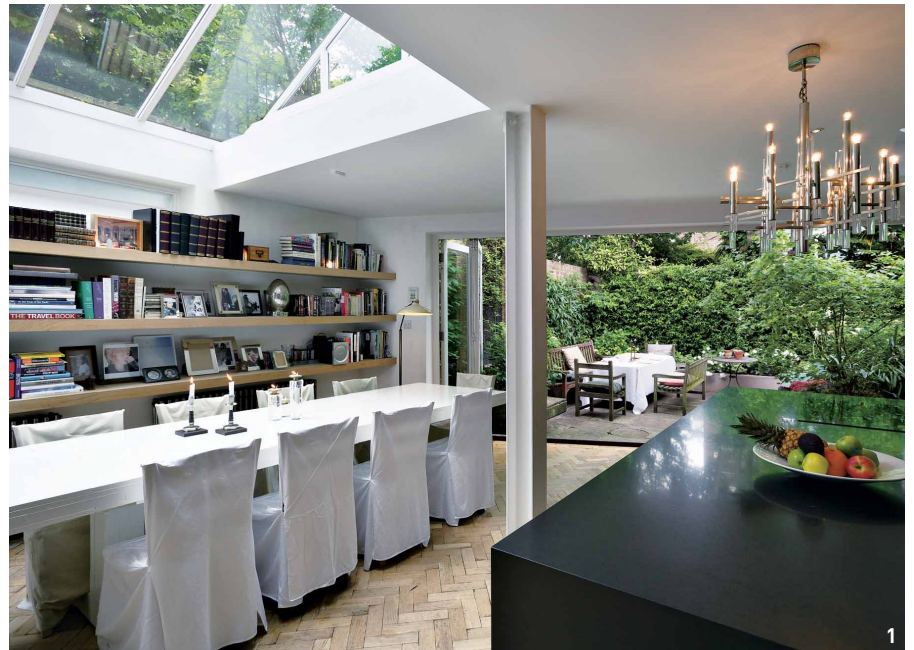




Part_1

LONDON

ひとつの部屋として考える



Profile Rose Uniacke

ローズ・ユニャッケさん／1963年生まれ。オックスフォードマルボロ大学、ロンドン大学卒業後、家具修復家、画家になる。その後、4年間のフランス在住後、以前から骨董屋を経営していたお母さまと共同で新しく骨董屋をオープン。アンティークの家具を輸入すると共に、インテリアデザインの仕事を始める。現在は英国を中心に多くのプロジェクトを手がける。www.roseuniacke.com/



1 LDから庭を望む。庭側の大きな開口部だけでなく、天井にもガラスの天窓が大きくとられ、視界に緑が入り込む。2 10人掛けのダイニングテーブルは、空間に広がりをもたらすホワイトを選択。寄木細工で作られており、ピエット・ハイネックというオランダ人のデザイナーが手がけたもの。p.092-093 庭側から眺めると、2階のテラスの緑が1階の庭とつながり、空間全体に奥行きを出している。

ENGLISH GARDEN



Connected GARDEN

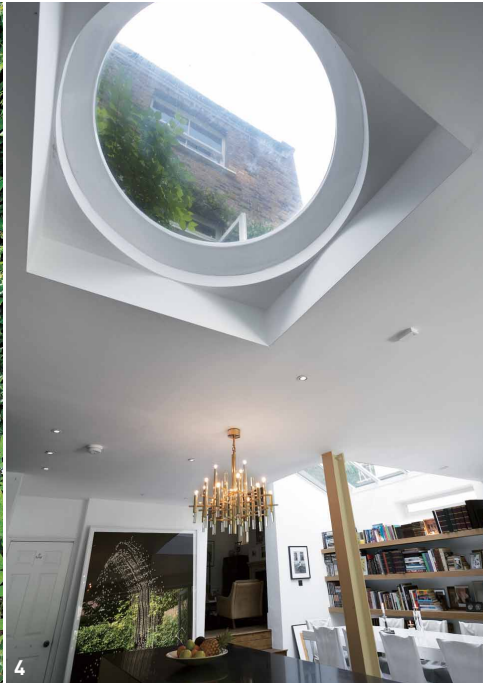
プランターの緑で「小さな森」をつくれたLDKの延長の庭

こぢんまりとした変形の庭がLDKと連結しているローズ・ユニヤッケさんの自邸は、ロンドンの中心にありながら「緑のある暮らし」を実現しています。

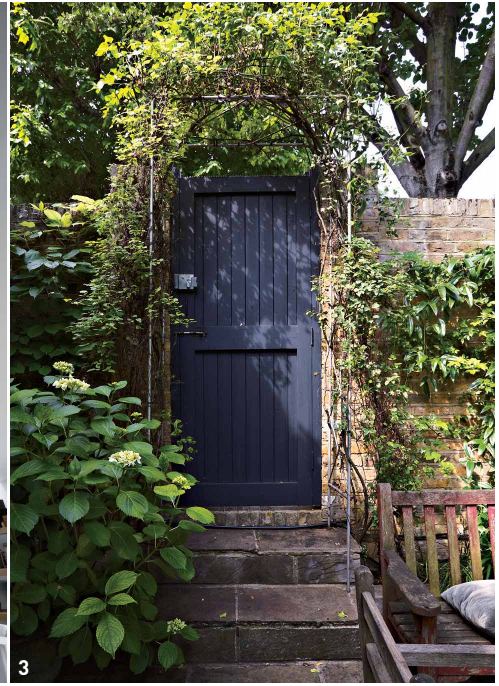
ENGLISH GARDEN



5



4



3

大小さまざまな鉢植えと古い家具で囲むプラン

ローズ・ユニヤツケさんは、イギリスでオーガニックなデザインを手がけることで人気のインテリアデザイナーだ。

彼女の自邸は、閑静な住宅地にあるロンドンの典型的なフラット。だが玄関からLDKを抜けると視界が開け、緑に囲まれた明るい庭が目飛び込んでくる。

この家に住んで4年、内部にもかなりリノベーションを加えたが、庭も大胆にイメージを変えたと言っ。もともとあった建物の庭側の壁を崩し、庭のスペースを以前より広く明るく、「内部空間とひと続きの部屋」へと一新させた。以前の「眺めるためだけの庭」とはまったく異なるコンセプトになっている。

「内部とひと続きの空間」と感じられる要因は、庭との境界線を斜めにし、フロアレベルをほぼ同じにしているため。それによって、外を部屋の延長スペースとして感じることができ。2階にも庭側に小さなテラスをつくり、プランター、木のベンチ、テーブルを置いている。小さなスペースだが、天気の良い日は、ローズさんはいつもそこで仕事をしているそう。

どちらも石が敷き詰められていて、グリーンは中央のテーブルと椅子を囲むように配置されたプランターだけ。いわゆるガーデンニングが主役の庭とは一線を画す。

ふたりの子供がいるローズさんの一家は、このボーダレスな空間で「緑を身近に感じる」日常を送っている。



8



7



6

3 庭のコーナーの扉に緑のアーチをあしらひ、カントリーハウスのテイストを取り入れている。4 キッチンにも円い天窗が設けられ、ここから「緑と空」を眺めることができる。5 壁もツル草で覆い、緑で庭のスペースを囲むように設計。外部空間にふさわしい素朴な木のベンチだが、クッションやテーブルセッティングを調えると、室内と同様に過ごす場へと変化する。6 ローズさんのインテリアデザイン哲学は、コンテナポタリなデザインの中に、古いものをミックスすること。このテーブルもあえて古いものを手に入れ、このスペースを味わい深いものに仕上げています。7 ローズさんの書斎とつながる2階の小さなテラスにも、1階とお揃いのテーブルと椅子を配している。ローズさんは、光と緑に包まれるこの庭でよく仕事をしているそう。8 「中のダイニング」と「外のダイニング」——天気や季節により、違った場で食事ができる。

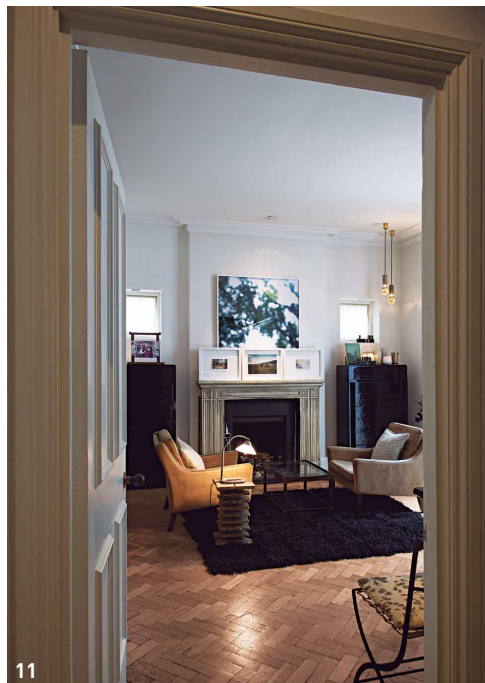
外は緑、室内はナチュラルカラーでまとめている

「ピースフルなイメージに」と色を抑え、カシミアのデュベカバーをあしらったベッドルーム。19世紀末のシャンデリアがポイント。

奇をてらわず、上質な素材を使ったインテリア



ENGLISH GARDEN



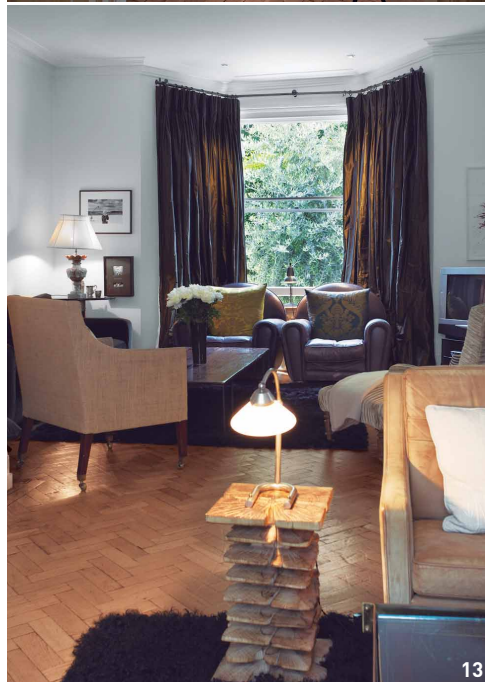
11



10



9



13



12

p.096 ベッドルームの一角のカフェスペース。右のランプは1940年代のもの。2階全体は、19世紀後半から20世紀初頭の家具をポイントにした空間デザイン。上質な白いファブリックをたっぷり3枚重ねたカーテンは、部屋を優しくロマンティックに演出。9 バスルームを広くとるため、リノベーションにあたり、バスルームとベッドルームの位置を入れ替えた。そのワンコーナーには以前そこにあった暖炉をドレッサー代わりにしつらえてある。10 1階のリビング。フランスの古いフローリングの床材を使用。モノクロ写真のアートは、チェコ人のアーティストであるコーデルカ・ジョセフ氏のものが多い。11 写真10の逆サイドから見た風景。暖炉は古いカントリーハウスのものもってきた。12 2階のバスルームからも開口部を通して庭が望める。13 1階の庭と反対側のリビングは、イギリスのフラットらしい採光を絞った空間。窓の外には大きなオリーブを植えている。14 2階のローズさんの書斎には、お気に入りの19世紀末の椅子が飾られている。



14

18~19世紀の家具が揃う ローズさんのインテリアショップ

HILARY BATSTONE
“ヒラリー・バツストーン”は、1980年にローズさんと彼女の母とでオープンしたインテリアショップ。フランス、イギリスのアンティーク家具が中心。ローズさんのファブリックも扱っている。8 Holbein Place London SW1W 8NL ☎+44(0) 20 7730 7050 www.hirarybatstone.com/

